

【ファシリテーターの活動状況】

第6回地域包括ケア専門職“絆”研修③看取りの時期「終末期の支援」

- 日時 令和4年1月23日(日) 9:15~12:15
- 場所 オンライン研修
- ◎ 研修総参加者 48名 : 7グループ
- ◎ ファシリテーター 7名
- ◎ プレゼンター 2名

※第6回地域包括ケア専門職“絆”研修シリーズ③看取りの時期「終末期の支援」に向け、ファシリテーター、プレゼンター、研修支援WG委員による3回の打ち合わせ会を行い、研修会にのぞみました。



【プレゼンテーション】

- ◆アイスブレイク・グループワーク①・人工的水分、栄養補給について
(研修統括ディレクター足立誠司医師:鳥取市立病院)
- ◆グループワーク②・在宅死に影響する要因 (衣笠久美子看護師:鳥取市立病院)

<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">・看取りにおける一般的な経過や徴候を理解する・看取りの時期は、十分な症状緩和と共に、不必要な治療やケアの見直しも検討する・家族に対して適切な病状説明や今後予測される変化とその対応、患者との接し方について説明する	
--	--

- ◆ACP等・まとめ(研修統括ディレクター足立誠司医師)

<p>シリーズ③看取り メッセージ</p> <ul style="list-style-type: none">・摂食嚥下困難時の人工的水分・栄養補給について導入、減量・中止の目的を共有する・人生の最終段階における医療・ケアの意思決定プロセスについて理解する・医療・介護だけでなく、人生の視点で本人・家族の希望や幸せに配慮することが大切である	
---	--

【ファシリテーター】

◆ブレイクアウトルームでのグループワークの進行、記録等

【スタッフの振り返りより】

ファシリとして良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

- ・打ち合わせの中で活発な意見が出る雰囲気づくりについての話ができ、ありがたい。
- ・今までより研修全体の進行状況やグループワークの流れに目を向けることができた。
- ・画面をみながら発言を促したり、挙手の有無を確認しながらすすめることができた。
- ・参加者の発言を広めることは意識してできた。時間管理も問題なく行えた。
- ・参加者の職種、職場環境を活かすことを意識し、現場で実際に起きていることをグループで共有できるように発言の機会を作るようにした。

【プレゼンター】

- ・準備の段階で、事務局が細かい配慮をしていただいたので、運営上の問題が起こすことなく、研修を終えることができた。
- ・3回の事前打ち合わせに参加させていただき、皆さんからいただいたアドバイスでオンライン研修ならではの配慮、表現に気づかせてもらった。
- ・スライドに書かれている内容の意味を考えることで、自分の学びになった。

ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

- ・アイスブレイクの時間が少し余ったので、もう少し積極的に会話をつなげればよかった。
- ・グループワークでのディスカッション内容の具体化が不足していた。
- ・研修生からの意見・内容を具体的に説明して頂くような、ファシリテーションが必要であった
- ・意見を深める、広げるような声掛けができるようになりたいです。
- ・一つ一つの意見を深めることが少なく、曖昧な表現となっている部分が多くなっていた。次回は具体的な意見を発表できるように、一つ一つの意見に時間をかけ検討するような介入も行っていきたい。
- ・ワーク内容のまとめとメンバーでの共有、発表者に内容を確認すること
- ・グループワーク中に理由を聞くことで内容をさらに深めること

【プレゼンター】

- ・これまで病院の中でしか勤務経験がなく、医療者の中でしか研修をさせていただいたことがなかったため、自分の説明が、介護者にもわかりやすく伝わりやすいものだったか不安。今後は表現に配慮したい。
- ・グループワークの説明を順序だてて行い、発表者が心の準備ができるようにしたい。

研修参加者にとってよかったと感じたこと

- ・ファシリテーターが成熟していたため、グループワークの進行がうまくいき、グループ全員が発言でき、まとめ、発表まででたどり着くことができていた。余った時間を有効なディスカッションに利用され、研修が深まったのではないかと思った。
- ・笑顔でディスカッションがされていたこと。他施設の者、他職種、の考え行動を意見交換でき、自分との一致・不一致を確認できたこと。価値観、常識の違いを把握できたこと。

- ・司会と発表役を参加者にさせていただいたことで主体的なワークになったと思う。
- ・人数も時間もちょうどよく、十分な意見交換ができていたのではと感じました。
- ・GWの余った時間で参加者自ら質問が出て、それをメンバーで話し合うことができ良かった。
- ・参加者の方の積極性が上がってきていると感じる。
- ・GWの人数や時間もちょうどよく余裕を持って話し合いができたので、この位がベストに思う。
- ・参加者に司会をしていただいたがとても上手にされスムーズだった。ファシリの方が、「一人一役でおねがいします」と上手く案内されていたので、司会・発表の役割もスムーズに決まりよかったです。
- ・いろいろな方の意見が聞けるだけでなく、自分の意見も聞いてもらうことで多職種の思いが通じ合えることができると感じる。
- ・リモート研修に皆さんが慣れてきて、意見も活発になってきたように感じる。
- ・オンライン研修のため、隣のグループの話し声が聞こえることがない。
- ・少人数のグループだったため、全員が発言しやすかった。
- ・看取りの経験者や他の参加者から、経験談や考え方を聞けたこと。
- ・事例だけではなく、メンバー自身の経験談・失敗談などスムーズにやり取りができた
- ・アイスブレイクで参加者がもりあがり、グループとして団結感が高まった。
- ・それぞれの意見がでたことで、いろんな意見があっていいし、一つ一つの意見が尊重されることを感じてもらえた。
 - ・一つのグループがファシリと記録を含めて6人だったので、意見交換する時間に余裕ができた。
- ・職種・職域・年齢など条件の違う参加者でグループワークを行うことは貴重な経験になった。司会・発表などグループ内で役割を持つことも重要だと思った。
- ・ギャラリービューなど ZOOM ならではの参加方法を経験できたこと。
- ・在宅見取りを経験されたメンバーから、生の体験を聞かせていただき、よりワークが深まった。
- ・時間的な余裕が心理的な余裕を生んだような気がする。タイムアップがなくて、十分に時間を使ったことで意見の深掘りもできた。ファシリの時間の使い方がジャストで上手かった。
- ・参加するたびに学びがあり、自分への振り返りになること。

研修参加者にとって良くなかったと感じたこと

- ・介護職からの参加が少ないのが残念。
- ・リハ職・ケアスタッフの参加者が少なく、看護師・MSW など若干参加者に偏りが出てきているのが気になりました。参加者の幅が広がれば、より多くの視点での意見交換ができたと思います。

スタッフの感想・意見

- ・研修参加者のグループワーク能力の高さ、進歩に感激いたします。研修会の開催が功を奏しているのと同時に、地域での各職種がカンファレンスなどの機会を持つことが増え、たくさんの職種が集まって検討する風土が出来ているという事なのか？地域のシステムの中で連携が進んでいるのだと思える状況だと感じました。
- ・ワークシートがどのグループも見やすくそれぞれに工夫され、うまくまとめておられることに感心します。名前の変更を自分でされている方が多くなるなど、Web研修に慣れてこられたのかなと感じました。
- ・スタッフ(ファシリ、記録)もオンラインの形式に慣れてきて突然の役割やメンバー変更があっても対応できるようになってきているなど感じる。
- ・回数重なるごとにスタッフ間の雰囲気がいよいよ感じとなりそれが、研修の雰囲気をよくしていると感じます。リアルに会える日が来るといいですね。

- ・グループワークで「終末期は、病院だろうが在宅だろうが、医療も介護もやることは変わらない。場所が違うだけ。」と話しておられたMSWさんのことばが、“その通りだな”ととても印象的でした。また、「この患者にとって何が一番良いことなのかを、多職種が集まって患者・家族と話すことが大事」と話されていたので、参加者はこれまでの研修で根幹を理解されているのだなと思いました。
- ・リハ職の参加が少ない事が気になります。理学療法士協会の地域理学療法のポイントを付与できるようになれば参加者が増えるのではないかと思います。
- ・スタッフも参加者もオンライン研修に慣れてきたように感じます。スタッフの皆様も毎回スキルアップされていて、素晴らしいと思います。
- ・ZOOMでの研修に慣れてきたのが、スタッフ・参加者の両側から感じ取れる研修になっていました。
- ・グループワークの際に、特養・療養病棟など慢性期の方で勤務経験のある方から、以前に比べてすぐに胃ろうを作ることは少なくなった、本人・家族の意見を尊重し胃ろうなど作らない選択肢も提示することがしやすくなっているなど、現場での変化を聞いたのはうれしかったです。
- ・ファシリテーターがとても上手に時間を使い切りつつ、現場の話なども引き出して素直にすごいと思いました。参加者にとっても私個人にとっても、とても実りのある研修になったと思います。
- ・嚥下食についても個人的に非常に考えさせられ、早いうちからのACP、その積み重ねと繋ぐことの重要性を再確認しました。

発表用ワークシート (グループワーク①)		発表用ワークシート (グループワーク②)	
<p>医療スタッフの立場</p> <ul style="list-style-type: none"> 回復ができる見込みがあれば胃ろうの提案 点滴の継続か 嚥下の評価 胃ろうはしなくていいが、食べたいものを食べさせてあげたい。妻との会話をさせてあげたい。 抹消での点滴を。ルートが取れなくなったら自然に。 夫の意思を優先し胃ろうをしない。今後も同じ 	<p>介護スタッフの立場</p> <ul style="list-style-type: none"> 胃ろうについての理解ができていないかの確認 妻の介護負担のフォロー サービスの提案 妻の思いを傾聴、その都度の説明 医療からの訪問 死を受け入れるまでの辛さや不安を聴いてあげる。 清潔を保つための支援。 	<p>本人に対するケア</p> <p>【医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> 点滴、排便コントロール、訪問薬剤の口腔ケア 苦痛がないか、苦痛が少ないように 意識レベル、バイタル確認 清潔ケア、褥瘡できないよう皮膚観察 内服困難→中止の検討 麻薬、痛み止めなどを点滴でいくか確認 <p>【介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> 趣味：写真→好きな写真が見れる環境 音楽：にがい、モジなども好きなものを 感じられる環境を整える 乾燥予防、除圧、おむつ交換、保清 声かけ、タッチングなど普段と変わらないかかわり 	<p>家族に対するケア</p> <p>【医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> 吸引指導、吸引できているか確認 長女、長男へ状況を随時連絡 長男いつ帰ってこれるか確認 今後起こる症状や口内ケアなど 家族への精神的なケア、不安の軽減 困り感など聞き取り 苦痛が少いケアの仕方を伝える <p>【介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体調面の確認、しんどさ、困り感の傾聴、サービス調整 (必要に応じて) 葬儀に向けての準備など情報提供も 本人に何かしてあげたいことがないか 長男オンラインで葬儀 家族に後援が湧かないようなフォロー 死を受け入れられるように葬儀を都度伝える 緊急時の対応、夜間24時間対応を伝える

